

FPU Press Release

福井県立大学からのお知らせ

令和8年2月9日

報道機関各位

問合せ先 創造農学科 教授 村井 耕二
電話 0776-68-8322 (研究室) 090-3766-7171 (携帯)
E-mail murai@g.fpu.ac.jp

創造農学科4年生、卒業論文研究でスペルト小麦の収穫時期が遅くなる生育特性に関与する遺伝子を世界で初めて発見：日本での栽培に適した早生スペルト小麦開発の道を開く！

～スペルト小麦は低アレルギー性かつ風味豊かな小麦で世界的に注目～

～日本で栽培すると収穫時期が遅すぎてダメ～

～今回の発見で、日本で栽培可能な早生スペルト小麦の開発の道が開かれた～

～本成果について、世界の第一線で活躍されている京都大学教授からコメント～

スペルト小麦は通称「古代小麦」と呼ばれ、古くからドイツやスペインの一部地域で遺存的に栽培されてきました。スペルト小麦は、低アレルギー性で、植物繊維やミネラルを多く含み、独特の香ばしい風味があるため、世界的に注目され、現在、ヨーロッパ各国やアメリカで小規模ながら生産され、カンパーニュ、フォカッチャ、バゲットなど主にパンとして加工されている。

スペルト小麦は日本で栽培すると、普通的小麦よりも収穫時期が7月と極端に遅くなり、梅雨の長雨のために病気（赤カビ病）や穂発芽（穂の状態ですぐに発芽する現象）が発生し、正常な種子が生産できません。⇒ 日本で栽培するには、普通小麦なみに早く収穫できる「早生スペルト小麦」が必須です。

創造農学科村井研究室（ムギ類研究室）では、2022年からスペルト小麦の生育特性の研究を開始。2024年3月卒業「橋本真歩」さんの研究：日長反応性（日長に応じて生育が変化する性質）に関する遺伝子が普通小麦は Ppd-D1a であるのに対し、スペルト小麦は Ppd-D1b であることを発見

今回、2026年3月卒業の「加藤未渚」さんが卒業論文研究で、普通小麦とスペルト小麦の交雑後代の解析から、スペルト小麦の持つ Ppd-D1b 遺伝子がスペルト小麦の晩生の原因遺伝子であることを証明。2月10日（火）の卒業論文発表会で発表します。

つきましては、当日の記者会見での取材等にご配慮いただきますようお願いいたします。

記

- 1 日時 令和8年2月10日（火）12:00～12:30
- 2 場所 福井県立大学 あわらキャンパス 事務棟2階講義室
(福井県あわら市二面88-1 Tel. 0776-77-1443(代表))

当日、教育棟講義室で卒論発表会を行っていますが、立ち入りできませんことをご了承ください。

京都大学大学院農学研究科 教授 那須田 修平（植物育種学）のコメント
村井教授らの研究成果は、スペルト小麦の出穂、開花の早生化を可能にし、栽培地域の拡大につながる大きな成果と言える。



福井県立大学
Fukui Prefectural University